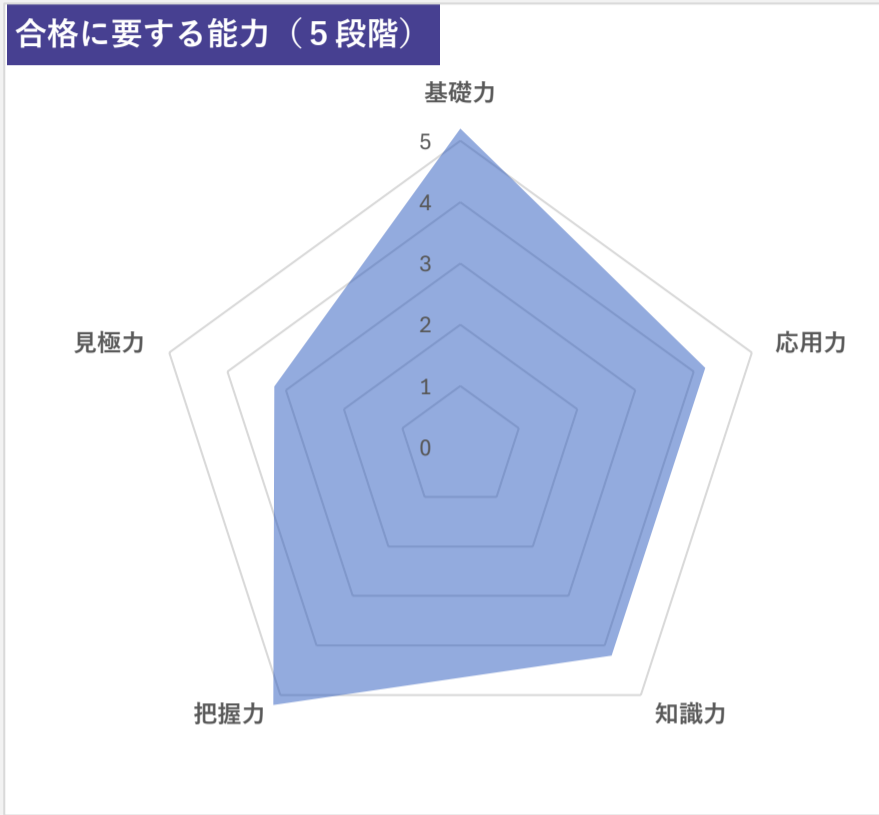


総合分析

試験区分	一般
------	----

制限時間	60分 (理科 2科120分)	大問数	全 2 問
------	-----------------	-----	-------

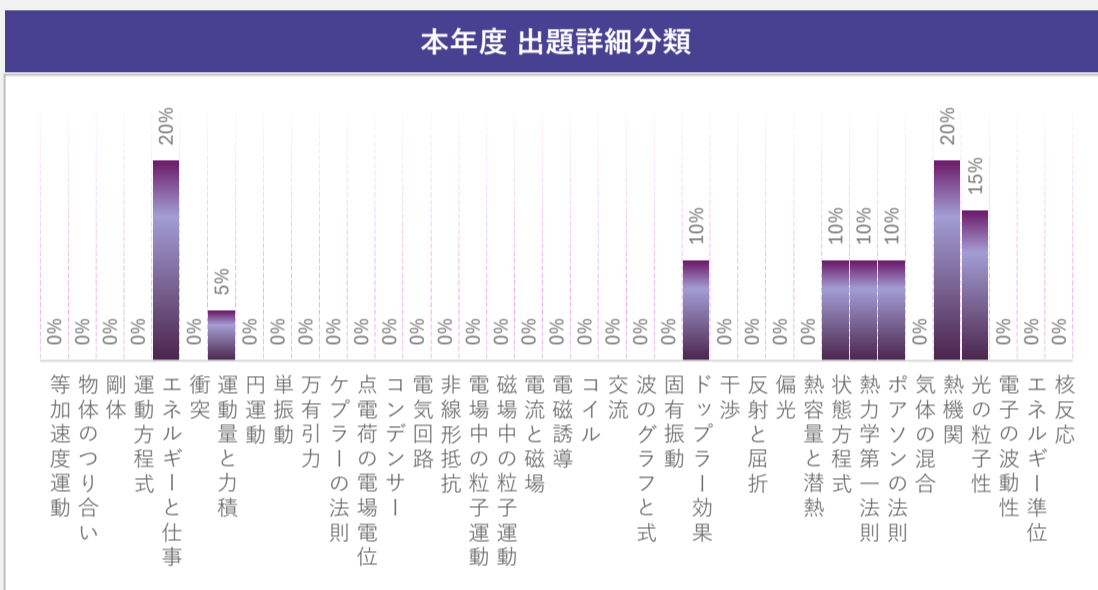


合格に要する能力 (5段階)		
基礎力	5.0	原理についての理解
応用力	4.0	演習経験による慣れ
知識力	4.0	用語を正確に覚えているか
把握力	5.0	臨機応変に状況を把握する力
見極力	3.0	解きやすい問題を選択する力

出題分野	
力学	25%
電磁気学	0%
波動	10%
熱力学	50%
原子物理	15%

本年度 解答形式	
論述	100%

本年度出題テーマ一覧	
第 1 問	不可逆過程と第 2 種永久機関
第 2 問	加速系における粒子のエネルギー



特殊問題の有無	近似計算あり	グラフなし
正誤問題なし	理由記述あり	数値計算なし

特記事項 高校範囲外である，相対性理論を背景とする論述問題が多い。

総合評価

難度	4.3	最難を 5 とする問題自体の難度	難しい	一次合格に必要な正答率 (予想)	63%
分量	60分	完答に要する時間 (制限時間は60分)	標準	標準	

入試の特徴と対策

- ▶ 設問ごとにテーマが一貫しており，目標に向かう流れがある。速やかなテーマの把握が鍵となる。
- ▶ 他に類を見ない出題が多く，対策は難しい。学習では量より質が鍵となる。
- ▶ 講義内容がそのまま出題されるような理論分野からの出題が多い。物理の考え方を身に着ける必要がある。
- ▶ 同時に複数の事柄への理解を要する出題が多い。独力で解法を組み立てる力を要する。

入試から見る 大学が求める学生像

高校教科書範囲に囚われず，物理学に関して普段から進んで考察・研究し，説明する訓練を行っていないと歯が立たないような設問が各大問の終盤に見られる。完答の必要はないが，極めて難度の高い各大問最後の設問を除き，一言も記述できないようであれば合格水準に達することは難しい。広く深い知識に加えて，それを他者へ伝えようとする姿勢を有する学生を求めていると考えられる。